

平成30年度 事故発生処理状況

1. 特別養護老人ホーム友愛園

利用区分	事故発生日	事故発生場所	事故発生内容の概要		被害状況	家族等への連絡状況	入院期間	見舞金額	主な事故防止対策他
1 入所	H30.5.4	居室	転倒	居室コールにより訪室すると、本氏より「洗面所の前でこけた。」と訴えがあり、全身確認したところ、右前額部に腫脹及び右手第5指に内出血を発見した為、病院受診する。診断の結果、右第5指関節内骨折と診断される。	右第5指関節内骨折	同日 家人(妻)に状況を報告	無	無	<ul style="list-style-type: none"> ・定期巡回等の訪室時には、必ず本氏にナースコールを押して頂くよう声掛けを徹底する。 ・夜間巡回時には、就寝状況を確認し、覚醒時には、排泄等の声かけを実施する。
2 入所	H30.6.9	転落	転落	他の作業中、食堂にて物音があり、目を向けると、床に右側臥位で倒れている本氏を発見する。左前額部に裂傷及び左手・左肘に剥離を確認したことから、止血処置後、病院受診する。右前額部に5針ナート施行。	右前額部裂傷及び左手・左肘剥離	同日 家人(三女)に状況を報告	無	無	<ul style="list-style-type: none"> ・座位時の姿勢及び状態確認を行い、少しでも転倒の危険性があると感じた際は、ベッドに臥床するなど、安全に配慮した対応に努める。 ・配膳等の準備を終え、見守りが可能になった後に、離床する。
3 短期入所	H30.6.29	居室	転倒	定期巡回の際、居室のベッド脇に長座位で転倒しているところを発見する。右下腿部の剥離及び右尾てい骨に疼痛の訴えがあることから、病院受診する。検査の結果、坐骨骨折との診断を受け、そのまま入院となる。	坐骨骨折	同日 家人(長男妻)に状況を報告	6/29～ 7/10	無	<ul style="list-style-type: none"> ・居室への巡回を強化し、巡回時の状況確認を実施する。 ・居室からの移動の際には、ナースコールを押して頂くよう声掛けを徹底する。 ・多動が見られた際は、見守り可能な場所へ移動し、転倒予防に努める。
4 入所	H30.8.2	浴室	打撲	入浴時、胸部に広範囲の内出血斑が見られたことから、病院受診する。検査の結果、胸部打撲によるもので骨等に異常はないとの診断を受け、帰園する。	胸部全域に皮下出血	同日 家人(長男)に状況を報告	無	無	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的移乗介助は、タオル使用による2人介助を実施し、胸部及び身体圧迫の低減に努める。又、移乗後の疼痛及び状態確認を徹底する。 ・タオル使用しない移乗を行う場合には、全身圧迫に留意した移乗を徹底し、移乗後に全身状態の確認を実施する。
5 短期入所	H30.9.27	居室	転倒	居室から物音があり、訪室すると、ベット脇で仰臥位で倒れている本氏を発見する。外傷はないが、立位時のふらつき及び発熱があることから、病院受診する。検査の結果、慢性硬膜下血腫との診断を受け、そのまま入院となる。	慢性硬膜下血腫	同日 家人(長男)に状況を報告	無	無	<ul style="list-style-type: none"> ・発熱等の、一般症状の観察を強化し、異常の早期発見に努める。 ・居室巡回の強化及びセンサーマット・ベッド柵センサーの使用により、都度、状況確認に努め、転倒・転落を予防する。

平成30年度 事故発生処理状況

6	入所	H30.10.31	食堂	転落	食堂の物音に気付き、駆け付けると、床に仰臥位で転倒している本氏を発見する。後頭部に腫脹及び疼痛の訴えがあったことから、病院受診する。検査の結果、右硬膜下血腫との診断を受け、そのまま入院となる。	右硬膜下血腫	同日 家人(妻)に状況を報告	10/31～ 11/13	無	<ul style="list-style-type: none"> ・食堂・フロアでの見守り強化に努め、職員が不在とならないよう徹底する。 ・座位保持や姿勢等を常に確認し、座位保持困難及び多動が見られた場合には、ベッドに臥床するなどの適切な対応に努める。
7	入所	H31.1.23	居室	腫脹	排泄介助の際、左第3及び第4指に皮下出血を発見する。湿布冷却及び手指固定後、病院受診する。診察の結果、左手基節骨骨折と診断される。	左手基節骨骨折	同日 家人(長男)に状況を報告	無	無	<ul style="list-style-type: none"> ・ベッド周辺の障害物の排除及び保護に努め、巡回時に麻痺側の敷き込みがないか確認する。 ・移乗時には身体の圧迫の軽減に努める。 ・すべての介助時に、拘縮側への負荷やねじれをかけないよう細心の注意を払う。
8	入所	H31.2.13	食堂	誤薬	夜勤者が眠前薬を当日分と翌日分を取り間違えて重複して服用させてしまう。2時間後に薬管理ケースの間違いに気付き、直ちに主治医に連絡し、1時間ごとのバイタル測定及び全身状態の観察の指示を受け、特に状態に変化はなく、経過する。	状態変化なし	同日 家人(長男)に状況を報告	無	無	<ul style="list-style-type: none"> ・夜勤者以外は眠前薬を触らない等、業務の取り決めの周知・徹底に努める。 ・眠前薬チェック表を用い、与薬すれば即記入するよう徹底する。 ・本日分の薬とその他の薬は別々に保管し、管理場所及び取扱者を区別する。
9	入所	H31.2.13	食堂	誤薬	上記8と同様	状態変化なし	同日 家人(長女)に状況を報告	無	無	上記8と同様

平成30年度 事故発生処理状況

2. 養護老人ホーム高岡園

利用区分	事故発生日	事故発生場所	事故発生内容の概要		被害状況	家族等への連絡状況	入院期間	見舞金額	主な事故防止対策他
1 入所	H30.4.2	食堂	誤薬	17:30 職員が他利用者の夕食後薬を誤って配薬し服用してしまう。30分後、薬管理ケースに本氏の薬包が未配薬であることに気づき、直ちに看護職員に連絡したところ、誤薬者と同じ処方箋であることが判明し、様子観察の指示を受け、特に状態に変化なく経過する。	状態変化無し	無	無	無	<ul style="list-style-type: none"> ・薬袋に記載された名前の声出し確認を配薬前、服薬時、服薬後に行うよう周知徹底する。 ・配薬は、他の作業と並行して行わず、配薬準備時及び配薬前に薬情並びに配薬者確認を複数回実施する。 ・配薬後に間違いがないか再確認を実施する。
2 入所	H30.4.8	トイレ	転倒	0時30分頃、定期巡回時、トイレ内で長座位で倒れている本氏を発見する。左肘に切り傷及び打撲、左膝に擦過傷、後頭部及び左肘に疼痛の訴えあり。頭部クーリング及び患部の処置施行。その後、様子観察を行うが特に問題なく経過する。	左肘に切り傷及び打撲 左膝に擦過傷 後頭部と左肘に疼痛	同日 家人(長女)へ電話にて報告	無	無	<ul style="list-style-type: none"> ・眠剤服用時の行動を予測しながら、転倒・転落・滑落の危険性があることを常に考えケアにあたる。 ・排泄サイクルを把握し、事前の声かけ及び排泄介助に努める。
3 入所	H30.5.18	トイレ	転倒	23時の定期巡回時に4階西側女子トイレにて、本氏が頭を触りながら座り込んでいるところを発見する。左頭部に瘤を確認するが、他に外傷及び疼痛の訴えがない為、バイタル測定及び頭部クーリングを施行。その後、様子観察し、特に問題なく経過する。	左頭部に瘤	同日 家人(長女)へ電話にて報告	無	無	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄時はナースコールにて職員に介助を依頼するよう声掛けを行う。 ・排泄サイクルを把握し、事前の声かけ及び排泄介助を行う。
4 入所	H30.5.18	エレベーター内	転倒	他入所者から「2階エレベーターで本氏が転倒している」とナースコールがあり、駆けつけると、本氏がエレベーター内で座り込んでいるところを発見する。意識明瞭、左下顎辺りに打撲、及び両膝の擦過傷を確認し、患部の処置施行。その後、様子観察を行うが特に問題なく経過する。	左下顎の打撲 両膝に擦過傷	無	無	無	<ul style="list-style-type: none"> ・眠剤等の服用後は、自室まで付き添う。 ・眠剤を服用し、自室に入った後に所用が生じた場合は、ナースコールにて、職員に依頼等を行うよう声掛けを行う。
5 入所	H30.8.17	居室	打撲	職員2人がスライディングボードを用いて車いすからベッドへの移乗介助を行った際、勢い余って、ベッドの反対側の壁に備え付けられた電気スイッチに頭部が接触。右側頭部に腫脹が見られた為、頭部クーリング施行。その後、様子観察を行うが特に問題なく経過する。	右側頭部腫脹	同日 家人(長女)へ報告	無	無	<ul style="list-style-type: none"> ・介助前に入居者に対して介助方法の説明を行った上で介助を行う。 ・表面が滑り易い加工となっていることを念頭におき、力及び滑り加減を考慮しながら、移乗介助を行う。 ・2人介助を行う際は、声を掛け合い、安全に気を配った介助を行う。

平成30年度 事故発生処理状況

6	入所	H30.9.17	居室	転倒	AM4:45 訪室すると、滑り止めマットが所定の位置からずれており、ポータブルトイレと車椅子の間で右側臥位になって転倒している本氏を発見する。右足の爪に内出血及び右腰・肘に擦過傷を確認し、処置施行。	右足の爪内出血及び右腰、右膝に擦過傷	同日 家人(長女)へ報告	無	無	・滑り止めマットが剥がれないよう確実に固定する。 ・ベッドから離れる際は、ナースコールを使用し、職員に介助を依頼するよう声掛けを行う。
7	入所	H30.10.2	居室	転倒	14:25 同室者が倒れているとの報告により訪室すると、ベッド横に仰臥位で倒れている本氏を発見する。左前頭部に疼痛の訴えがあり、頭部クーリング施行。その後、様子観察を行うが特に問題なく経過する。	左前頭部痛	同日 家人(姪)へ報告	無	無	・ベッド臥床時は職員間で連携し、訪室回数 の増加を図る。 ・離床時はナースコールを押し、職員に介助 を依頼するよう声掛けを行う。
8	入所	H30.11.26	居室	転倒	訪室の際、ドアを開けた入室したところ、本氏が驚きその場でバランスを崩して転倒する。 翌日、左大腿部に疼痛及び立位が困難なことから、病院受診したところ、左大腿骨頸部骨折との診断を受け、そのまま入院となる。	左大腿骨頸部骨折	無	H30.11.27 ～ 12.25	70,000円	・訪室時は、ドアを開ける前にノックをする、呼びかける等、プライバシーを配慮した対応に努める。 ・転倒の恐れがある利用者に対して、訪室の頻度を増やし、見守りの強化を図る。
9	入所	H31.1.11	食堂	誤薬	17:20 職員が同姓の他利用者の夕食後薬を誤って手渡し服用してしまう。30分後に薬管理ケースに本氏の与薬が残っていることに気づき、直ちに看護職員に報告し、水分の飲用並びに定時のバイタル測定の指示を受け、特に状態に変化なく経過する。	状態変化無し	無	無	無	・同姓の入居者の配薬確認は、より慎重に薬袋に記載された名前の声出し確認を実施するよう周知徹底する。 ・配薬は、他の作業と並行して行わず、配薬準備時及び配薬前に薬情並びに配薬者確認を複数回実施する。 ・配薬後に間違いがないか再確認を実施する。
10	入所	H31.2.9	居室前	転倒	他利用者から本氏が居室前で転倒していると報告があり、駆けつけると、右頬を下にして倒れている本氏を発見する。鼻腔及び口腔内に出血を確認し、止血処置施行。その後、バイタル測定及び様子観察するが、特に問題なく経過する。	鼻腔・口腔内出血	無	無	無	・下肢筋力の低下及び転倒リスクの高い利用者をリストアップし、その利用者への訪室回数を増やし、見守りを強化する。 ・入居者の排泄リズムを把握することで、訪室のタイミングを計り、トイレへの付き添いを行う。

平成30年度 事故発生処理状況

3. 友愛園デイサービスセンター

利用区分	事故発生日	事故発生場所	事故発生内容の概要		被害状況	家族等への連絡状況	入院期間	見舞金額	主な事故防止対策他
1 通所	H30.6.22	浴室	転倒	入浴時、浴槽から洗い場へ行こうとしたところ、足を滑らせ転倒する。	右膝軽度打撲 右足背に2mm程の擦過傷が3か所	同日報告	無	無	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が浴室内で移動する場合は、必ず付き添いを行う。 ・浴室内の介助スタッフが不足する場合は、応援要請を行い、常に入浴中の全利用者の見守り及び介助が行えるよう連携を取る。
2 通所	H31.2.14	浴室 脱衣場	転倒	入浴脱衣時にイスから浴室用車イスへの移乗の際、本氏が立位後、浴室椅子の差し替え完了前に座位動作を開始され、そのまま床に尻餅をつかれる。	無	同日報告	無	無	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者に対して介助方法を十分に説明した上で介助を開始する。 ・リフトチェア⇄車イス間の移乗介助は2人介助で行う。

平成30年度 事故発生処理状況

4. 特別養護老人ホーム彩葉

利用区分	事故発生日	事故発生場所	事故発生内容の概要		被害状況	家族等への連絡状況	入院期間	見舞金額	主な事故防止対策他
1 短期入所	H30.5.10	居室	転倒	<ul style="list-style-type: none"> 起床時、右大腿部痛の訴えあり全身確認するも、外傷等異常は見られず、経過観察となる。 当初、立位保持、歩行が可能も、徐々に痛みが増大、5/12、9:00頃受診する。 本人の認知機能低下により状況確認が出来ないが、日頃から徘徊がみられ、夜間に居室にて転倒、転落したと思われる。 	右大腿骨骨折	<ul style="list-style-type: none"> 事故当日及び5/12の受診後に電話にて後見人、担当ケアマネジャーに事故状況や受診結果を報告 H30/5/16保険者に事故報告書を提出 	H30.5.12～	無	<ul style="list-style-type: none"> 所在の確認に努め、日中は目視可能な範囲で過ごして頂き、夜間、居室にて過ごされる場合は室内確認を頻回に行う。 室内の整理整頓に努め、動きやすく安全な環境を維持する。 下肢筋力の維持向上に努め、立位や歩行の安定を図る。
2 短期入所	H30.6.9	居室	転倒	<ul style="list-style-type: none"> 12:55頃、居室より物音がした為、訪室すると、前のめりに倒れておられるところを発見する。 右眉上部に巾2cm程の裂傷、出血を確認する。 車椅子座位時に上半身が前傾し、その勢いで床へ転倒したとのこと。 病院受診の上、4針の縫合処置となる。 	右眉上部裂傷	<ul style="list-style-type: none"> 転倒時、家族と面会中であった 6/11担当ケアマネに事故の状況及び受診結果を報告 H30/6/11保険者に事故報告書を提出 	無	無	<ul style="list-style-type: none"> 車椅子での座位時における姿勢に注意を促す。 居室訪問など見守り強化を行う。
3 入所	H30.6.15	ユニット内リビング	不明	<ul style="list-style-type: none"> 4:00頃、腰痛の訴えあり、確認するも、外傷、打撲痕等、異常は見られず経過観察となる。 8:00頃、再度腰痛の訴えあり、ベッド上で体動困難な状態となり、受診する。 認知機能低下の為、ご本人から状況を伺う事が出来ず。 	腰部圧迫骨折	<ul style="list-style-type: none"> 同日10:00頃、電話にて家族に状態と病院受診の旨を報告 同午後、電話にて家族に結果を報告 H30/6/18保険者に事故報告書を提出 	無	無	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活の中で負荷のかからない姿勢を保持できるよう、適宜声掛け、見守りを行う。
4 入所	H30.7.10	浴室	不明	<ul style="list-style-type: none"> 10:00頃、入浴の脱衣時に左大腿部の痛みの訴えがあり、受診する。 認知機能低下の為、ご本人から状況を伺う事が出来ず。 	左大腿骨骨折	<ul style="list-style-type: none"> 同日10:30頃、電話にて家族へ事故の状況及び病院受診の報告を行う 受診時、家族の同席があり、再度説明を行う H30/7/11保険者に事故報告書を提出 	H30.7.10～ H30.8.6	無	<ul style="list-style-type: none"> 立位保持や歩行は不可能で、車椅子にて移動の介助を行っているが、ベッドでの体動が多く、ベッド柵への接触の可能性も否めない為、タオルを巻くなどの緩衝対策を行う。

平成30年度 事故発生処理状況

5	短期入所	H30.8.5	居室	誤薬	<ul style="list-style-type: none"> ・17:20頃、食前の配薬の際、他の利用者の処方薬と取り違えて服薬させてしまった。 	無	<ul style="list-style-type: none"> ・同日18:00電話にて家族に経緯と現状経過観察を行っている旨を報告 ・翌8/6、10:30電話にて担当ケアマネに報告 ・H30/8/5保険者に事故報告書を提出 	無	無	<ul style="list-style-type: none"> ・薬袋に記載された名前と本人の確認を、配薬前、服薬時、服薬後の3度行うように周知徹底する。 ・処方薬の薬情を定期的に再確認し、職員で共有する。
6	入所	H30.8.15	ユニット内食堂	誤薬	<ul style="list-style-type: none"> ・8:10頃、食後薬を重複して服用させた。 ・介助を行った職員がその場を離れた際、別の職員が服薬前と勘違いし、再度服薬介助を行った。 ・当日のみならず翌日の薬ケースが準備されており、翌日の薬ケースの日付確認を怠った事が原因と考えられる。 ・担当医師に確認し、夕食後の服薬を控えるようにとの指示があった。 	無	<ul style="list-style-type: none"> ・事故当日は家族への連絡が取れなかった為、翌朝、経緯と現状、について報告 ・H30/8/16保険者に事故報告書を提出 	無	無	<ul style="list-style-type: none"> ・薬ケースの日付確認を徹底する。 ・服薬介助の手順について、マニュアルを再確認すると共に、職員間でも周知徹底する。
7	入所	H30.8.19	居室	転落	<ul style="list-style-type: none"> ・4:50頃、巡視の為訪室するとベッド近くの床で座っているところを発見する。 ・左大腿部に強い痛みの訴えあり、その後振戦が出現した為、6:00頃、救急要請を行った。 ・本人によると、トイレに行き下着が汚れた為、居室に戻って着替えようとした際に転落したとのことであった。 	左大腿部骨折	<ul style="list-style-type: none"> ・同日5:00頃、家族に電話にて状況報告、救急搬送を行う旨を伝えた ・搬送時、同席された家族に状況報告 ・H30.8.24保険者に事故報告書を提出 	H30.8.19～ H30.10.11	無	<ul style="list-style-type: none"> ・着替えなどの際にはナースコール等で職員を読んで頂くようお願いする。 ・下肢筋力の維持向上を図る。 ・履物の底が滑りにくい物への変更を検討する。
8	入所	H30.9.3	居室	転倒	<ul style="list-style-type: none"> ・8:00頃、訪室時、本人より転倒し床頭台に頭部をぶつけた旨の申し出があった。 ・外傷は見られなかったが、その後気分不良の訴えがあり、施設医の指示で大西脳神経外科を受診する。 ・ベッドから立ち上がる際にバランスを崩し転倒されたと思われる。 	無	<ul style="list-style-type: none"> ・同日8:30頃、家族に電話にて状況報告 ・同日13:00頃、家族に受診結果と現状を報告 ・H30/9/6保険者に事故報告書を提出 	無	無	<ul style="list-style-type: none"> ・ベッド柵の位置を再度見直し、立ち上がる際の支えとして機能しているかを確認する。 ・下肢筋力の維持向上に努めると共に、定期的な訪室により状態確認を行う。

平成30年度 事故発生処理状況

9	短期入所	H30.9.7	居室	転倒	<ul style="list-style-type: none"> ・18:50頃、居室にて発声があり訪室すると、ドアの前に座り込んでいるところを発見する。 ・右眉上部に縦3cm程の裂傷があった為、応急処置を行い受診する。 ・ポータブルトイレの前に靴が脱がれた状態であり、靴を正しく履けずに歩行したため転倒したものと考えられる。 	右眉上部裂傷	<ul style="list-style-type: none"> ・同日19:00頃、電話にて家族に状況報告 ・同日19:30頃、電話にて受診する旨を報告、来院の際も再度報告 ・H30/9/13保険者に事故報告書を提出 	無	無	<ul style="list-style-type: none"> ・ポータブルトイレまでの動線を再検討し、ベッド横に移動する事で転倒を予防する。 ・居室のドアを少し開けておくことを了承いただき、スタッフが確認しやすい環境作りを行う。
10	入所	H30.9.10	居室	転倒	<ul style="list-style-type: none"> ・9:40頃、居室前に座り込み状態のところを発見する。 ・左目尻に3cm程の裂傷、左頬に打撲痕と内出血も見受けられた為、受診する。 ・居室から食堂への移動の際に転倒したものと考えられる。 	左目尻裂傷 左頬打撲	<ul style="list-style-type: none"> ・同日10:20頃、長男様に電話にて状況報告し、受診する旨を伝える ・同日15:00頃、受診結果と状況を改めて伝える ・H30/9/13保険者に事故報告書を提出 	無	無	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的にスリッパを好んで履いておられるが、脱げにくく滑りにくい履物に替えて頂く。 ・下肢筋力維持向上を図る。
11	入所	H30.9.25	ユニット内リビング	転倒	<ul style="list-style-type: none"> ・23:45頃、居室介助中にリビングで異音あり、確認すると仰臥位状態のところを発見する。 ・左こめかみに3cm程の裂傷と左手背に8cm程の表皮剥離が見られた。 ・微痛、意識明瞭にて意思疎通可能の為、応急処置後、自室で安静を保持し、翌26日受診する。 ・日頃より徘徊多く、本件深夜の為、十分な覚醒無しに歩行し転倒したものと思われる。 ・26日、近医にて創部の治療を受けるも、骨折の疑義あり、翌27日に協力病院を受診する。 	左こめかみ裂傷 左手背表皮剥離 左橈骨遠位端骨折	<ul style="list-style-type: none"> ・9/26、9:30頃、成年後見人に電話にて事故の状況を報告 ・9/27、骨折の事実についても追って報告 ・H30/9/28保険者に事故報告書を提出 	無	無	<ul style="list-style-type: none"> ・ベッドからの起居動作を察知するために離床センサーを設置し、速やかに介助が出来るよう図った。 ・夜間の安眠が得られるよう生活リズムを整える。 ・下肢筋力の維持向上に努め立位や歩行の安定を図る。 ・室内の整理整頓を励行し、動きやすい環境を作り、転倒のリスクを軽減する。

平成30年度 事故発生処理状況

12	入所	H30.10.8	居室	不明	<p>・18:00頃、家族と外出から戻られた後に腹痛の訴えあり、居室で安静横臥していたが、19:00頃、再び強い痛みを発症したため救急要請、明石医療センター搬送となる。</p> <p>・便秘の痛みと目されたが、レントゲン検査では肋骨骨折も発見されており、それに起因する痛みの可能性もあるとの診断であった。</p>	便秘 肋骨骨折	<p>・同日19:15頃、家族に電話にて状況と救急搬送する旨を報告</p> <p>・同日20:00頃、家族来院の際、改めて経緯状況を報告</p> <p>・H30/10/18保険者に事故報告書を提出</p>	無	無	<p>・生活リズムの改善や排便周期の把握に努め、便秘の予防を図る。</p> <p>・居室にセンサーマットを設置し、転倒転落の予防を図る。</p>
13	短期入所	H30.10.28	浴室	不明	<p>・14:30頃、ストレッチャー浴より車椅子に移乗介助した際、胸の中心より上部に痛みの訴えあり、外傷は無くその後鎮静する。</p> <p>・翌29日8:30頃、再度痛みの訴えあり、11:00頃、かかりつけ医から紹介され整形外科を受診した。</p> <p>・介助者のシャツのボタンが当人胸部を圧迫した、との申し出もあるも、詳細不明である。</p>	胸椎挫傷	<p>・翌29日9:30家族に電話にて状況報告</p> <p>・同日11:00頃病院に来院された家族に改めて状況を報告</p> <p>・H30/10/30保険者に事故報告書を提出</p>	無	無	<p>・移乗時、前方より抱え介助を行っているが、今後はご本人に前方の支えを掴んで頂き、後方向より職員が支えるように変更する。</p>
14	入所	H30.11.17	不明	不明	<p>・18:30頃、臥床時に左外踝に10×12cmの内出血を発見するも、痛みの訴えなく、居室で安静保持する。</p> <p>・19日10:00頃、当該患部に痛みの訴えあり、確認すると腫れが見られた為受診する。</p> <p>・移乗介助時に車椅子のフットレストに接触したと考えられる。</p>	捻挫	<p>・19日10:30頃、家族に電話にて状況を報告、受診時に同席家族に改めて状況を説明した</p> <p>・H30/11/26保険者に事故報告書を提出</p>	無	無	<p>・移乗介助の際はフットレストを外す。</p> <p>・室内の整理整頓に努め、介助しやすい環境を作る。</p>
15	入所	H30.12.18	不明	不明	<p>・9:00頃、左鎖骨部に痛みの訴えあり、確認すると腫脹、内出血が見られた為、受診する。</p> <p>・転倒、転落は確認されず、原因は不明であるが、移乗介助時に負荷がかかったと考えられる。</p>	左鎖骨骨折	<p>・同日12:00頃家族に電話にて状況を報告</p> <p>・H30/12/21保険者に事故報告書を提出</p>	無	無	<p>・前方より抱える介助から、前方に支えを置き、側面から職員が支える介助に変更する。</p> <p>・ベッド柵をL字にするなど、立位時に姿勢保持が出来る環境を整備する。</p>

平成30年度 事故発生処理状況

16	短期入所	H30.12.23	歩行中	転倒	<ul style="list-style-type: none"> ・13:55頃、ナースコールにより訪室、ベッド横に靴下で立っておられ、左側頭部に出血と腫脹が見られたので、応急処置後、受診する。 ・ベッドから移動する際、履物が脱落して転倒したものと思われる。 	頭部擦過傷	<ul style="list-style-type: none"> ・同日14:00頃、電話にて家族に状況報告 ・同日16:00頃、電話にて家族に受診結果を報告 ・H30/12/27保険者に事故報告書を提出 	無	無	<ul style="list-style-type: none"> ・スリッパをやめ、脱落しにくい履物に変更する。 ・下肢筋力の維持向上に努める。
17	入所	H31.1.6	居室	不明	<ul style="list-style-type: none"> ・6:00頃、離床介助の為訪室した際、下肢の痛みの訴えあり、右大転子付近に皮下出血を発見したため受診する。 ・自身で離床され、ベッドに戻られた際にベッド柵等で打撲したと考えられる。 	右大腿骨頸部骨折	<ul style="list-style-type: none"> ・同日8:45頃、家族に電話にて状況を報告 ・同日10:45頃、家族来院時に再度状況を説明 ・H31/1/9保険者に事故報告書を提出 	H31.1.6～ H31.2.19	無	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで夜間のトイレ誘導は行っていないが、排泄状況を把握し、定期的に訪室する。 ・センサーマットを設置するなどして離床時の付き添いを徹底する。
18	入所	H31.2.9	居室	転倒	<ul style="list-style-type: none"> ・5:40頃、居室の物音により訪室、ベッド横で右側臥位の状態で本人を発見する。 ・車椅子への移乗時に転倒したとの申し出で、右前額部に約3cm大の打撲痕あり、右腰部にも痛みがあったが、徐々に消失した。 ・2/11右脇腹痛の訴えにより、湿布薬で経過観察も、微痛が継続したため、2/15に受診する。 	右第11.12肋骨骨折	<ul style="list-style-type: none"> ・同日、家族に電話にて状況を報告 ・2/11家族面会時に状況と受診する旨を説明 ・2/15受診時の診断結果について報告 ・H31/2/19保険者に事故報告書を提出 	無	無	<ul style="list-style-type: none"> ・移乗時にはナースコールをご利用いただき、介助を行う。 ・下肢筋力の維持向上により、立位、歩行の安定を図る。 ・室内の整理整頓に努め、動きやすい環境を維持する。
19	短期入所	H31.1.24	不明	不明	<ul style="list-style-type: none"> ・H30.11.30のショートステイ入所時から左大腿部に痛みの訴えあったが、軽度にて鎮痛剤、湿布にて対応する。 ・痛みの継続により12/5、1/10にかかりつけ医を受診するも大腿部に異常なし、装具の不具合、熱発については腎機能の低下によるものとの診断される。 ・1/24、市民病院の定期受診の際、痛み強く再検査したところ、右股関節骨折と診断された。 	右股関節骨折	<ul style="list-style-type: none"> ・随時電話にて家族に状況を報告 ・1/24退所時に家族に口頭にて状況報告 ・H31/2/11保険者に事故報告書を提出 	H31.1.24～	無	<ul style="list-style-type: none"> ・当所での事故ではないと考えられるが、転倒リスクの高い利用者様についてはセンサーマットを利用するなど、移動のタイミングを逃さず介助できるよう努める。

平成30年度 事故発生処理状況

20	入所	H31.2.23	居室	転落	<ul style="list-style-type: none"> ・5:00頃、巡回の為訪室した際、ベッド横床に仰臥位にて転落しているところを発見する。 ・後頭部に打撲痕と思われる約3cm大の発赤あり、寝返りの際ベッド柵設置のなかった足元から転落したものと考えられる。 ・その他の異常はなかったが、頭部打撲の為、10:30受診した。 	後頭部打撲	<ul style="list-style-type: none"> ・同日10:00頃、電話にて家族に状況を報告 ・同日受診後、電話にて家族に診断結果を報告 ・H31/2/26保険者に事故報告書を提出 	無	無	<ul style="list-style-type: none"> ・ベッド横にセンサーマットを設置する。 ・転落時の衝撃を緩和するため、ベッド横にマット等を設置し安全を図る。
21	短期入所	H31.3.6	不明	不明	<ul style="list-style-type: none"> ・昼食後、トイレ誘導時に立位保持が出来ず、右膝の痛みを訴えられた。 ・湿布を貼り、臥床安静にするも、痛み強く熱感も見られた為、翌3/7整形外科を受診する。 	右腓骨骨幹部骨折	<ul style="list-style-type: none"> ・同日14:00頃家族に電話にて状況を報告 ・3/7 9:30頃受診時、同席した家族に直接説明 ・H31/3/11保険者に事故報告書を提出 	無	無	<ul style="list-style-type: none"> ・日常から利用者の患部の状態(腫脹、熱感、変形、皮膚状態等)に注意し、異変の早期発見に努める。
22	短期入所	H31.3.2	ユニット内リビング	不明	<ul style="list-style-type: none"> ・5:40頃、リビング床に座位状態で発見、左大腿部に痛みの訴えあるが、腫脹、外傷など見られず、冷湿布貼用し、経過観察する。 ・その後痛みもなかったが、3/3深夜より疼痛あり、3/4、10:00頃受診する。 	左大腿骨頸部骨折	<ul style="list-style-type: none"> ・同日9:50頃電話にて家族に状況を報告 ・3/4、10:00頃家族が受診同席の際、医師より説明を受ける 	H31.3.4～	無	<ul style="list-style-type: none"> ・リビングでの見守りが難しい時は、居室への移動を促し、臥床して頂くよう心掛ける。 ・センサーマットを効果的に使用する。

平成30年度 苦情等発生処理状況

1. 特別養護老人ホーム彩葉

受付日	利用区分	分類	申立内容の概要	処理状況
1 H30.7.10	短期 入所	苦情	<p>・H30.7.10、18:40頃長女より電話にて、退所後、右肘に皮下出血が見られるが、送迎時あるいは電話等で、経緯や原因の説明がなかったとの申し出があった。</p>	<p>・事実確認を行い、改めてご連絡する旨お伝えする。 ・担当介護職員に確認したところ、原因は不明ながら皮下出血の有無については把握していたが、送迎担当者への引き継ぎが出来ていなかったとの事であった。 ・同日19:00頃、長女に電話にて報告し謝罪する。今後は、状態の確認を適宜行い、ご家族への報告を怠らないよう注意する旨約し、了解を得た。</p>

平成30年度 苦情等発生処理状況

2. 特別養護老人ホーム 友愛園

受付日	利用区分	分類	申立内容の概要	処理状況
1 H30.4.25	入所	苦情	<p>投書箱に意見書の投函があり、①面会時に衣服が汚れている。(エプロンを使用しているが、毎回なので気になる。)②職員の挨拶・笑顔が少ない。③入所の方に対する言葉使いや対応が冷たく感じる。との意見を受ける。</p>	<p>・全職員に対して意見書の苦情内容の周知及び改善の指示・指導を以下のとおり実施する。 ①食事時等の衣類の着替えに対する考え方の周知 ②、③接遇研修による改善指導</p>
2 H30.8.2	入所	苦情	<p>入浴時、胸部に広範囲の内出血斑を発見し、病院受診すると、骨折は無く打撲による内出血の診断であった。家人(長男)に経過を報告し、状況確認の為、来園されることとなる。来園時家人より、胸部打撲の診断を受け、患部の確認及び状況説明を受けるが、事故の経緯が不明瞭であり、原因究明をすると共に治療費の負担について説明を求められる。</p>	<p>・対象職員に対して事実確認を行い、明確な回答は得られなかったが、本氏は全介助による移乗の為、移乗介助時の身体への圧迫による可能性が高いことから、後日、事故経緯を再度説明する。又、治療費については、保険にて対応する旨を説明し、了承を得る。</p>

平成30年度 苦情等発生処理状況

3. 養護老人ホーム 高岡園

No.	受付日	利用区分	分類	申立内容の概要	処理状況
1	H30.4.8	入所	苦情	<ul style="list-style-type: none"> ・面会時、デイサービスの利用日でないにも関わらず、デイサービスを利用しており、利用回数が増えていることについて経緯や説明がない。 ・普段の生活についても、扇風機や衣類等の私物がなくなったり、近況報告や説明がなく、施設の対応に不信感がある。との苦情を受ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・申立人に対し、デイサービスの利用回数が増えた経緯を担当CMから説明し、申立人への説明を怠っていたことを謝罪する。 ・私物の紛失等に関する苦情については、申立人の意向により、後日、書面にて回答を行う。 ・明石市高年介護室立ち合いのもと、申立人と面談を実施し、当該苦情及び金銭管理状況の事実確認を行うと共に、今後の対応について話し合いを行う。